

幸福を、平和を、豊かな心を、カンボジアの友と分かち合おう

Angkor Wat

アンコールワット

発行日:2024年(令和6年)11月1日

会報 第137号

特定非営利活動法人(NPO法人)

21世紀のカンボジアを支援する会

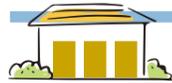
(AAC21) ASSOCIATION OF AID FOR CAMBODIA IN 21 CENTURY

【本部事務局】〒369-1246 埼玉県深谷市小前田1552-1
TEL 048-580-7048 FAX 048-580-7049
E-mail info@aac21.net

【カンボジア事務所】Royal park condo, Street 608, Toul kok, Phnompenh, Cambodia (855) 17-599-707

【ホームページ】 [カンボジア支援](#)

【公式ブログ】 [メコンの風に吹かれて](#)



辺境小学校の校舎建設、50%終了

「味の素グループ労働組合」が資金協力、来年1月に完成予定

カンボジアの首都プノンペンから車で5時間かかる辺境の村で始まった小学校の校舎建設、雨期にも関わらず工事は順調に進み、予定の50%が終了した。

校舎を新設する小学校は「メル小学校」(クラチェ州スヌオル郡スクムコムンメル村・生徒数=298人)、本会と連携してカンボジアで教育支援活動を展開する「味の素グループ労働組合」(本部=東京都中央区京橋)が建設資金を提供してくれた。

校舎はレンガブロック造りで平屋建ての3教室、すぐに授業ができるよう、教室内には机(椅子付き)や黒板などが予算内で設備される。

新校舎は来年1月末までに完成し、2月8日には「味の素グループ労働組合」の皆さんが参加して贈呈式を行う予定。



生徒たちも完成を待ちわびています。



来年1月末に完成します。

千里の道も一歩から 創立25周年に思う

今年もあと2ヶ月あまり、本会は2000年1月に創設しましたので、年末がくると丁度創立25周年の節目を迎えます。本会は10年毎に周年行事を行っていますので、今回は特に記念行事を行います。改めまして25年の歩みを振り返り、多くの皆様からのご理解、ご支援を心より感謝するものです。

「継続は力なり」と言いますが、25年前から活動しているカンボジア支援団体は数少なく、本会は老舗団体の一つに数えられています。カンボジアを訪問すると、どこへ行っても「オークン、オークン(ありがとう)」の連発です。皆様のご努力の賜物です。

会の名称の通り、本会は東南アジアの最貧国の一つだったカンボジアの戦後復興、特に教育支援を中心に25年間活動を継続してきました。その甲斐あってカンボジアも大きく成長、国民の暮らしも向上してきましたが、辺境の村に行くとも

支援の手を必要とする厳しい現状を垣間見ることがあります。こうした変化の中で、本会としても従前通りの支援一辺倒から相互交流活動を併行することで、活動のバランスを保つて参りました。この路線は本会が存続する限り変わることがないと思えます。「支援と交流」を合い言葉に、更なる飛躍を目標と参ります。

とはいえ日本もかつてのような経済大国としての存在感が薄れ、私たち国民の暮らしも決して楽ではなく、支援に回すお金にも限界が生じている昨今です。

こうした中ですが、決して背伸びする必要はなく、それぞれが身の丈に合った支援を考えてもらえたら充分かと思えます。かくいう私も来年はとうとう喜寿を迎える年になりますので、若い世代が継承してくれるまでもうひと頑張りする気持ちではあります。



子どもたちの幸せを願って

NPO法人 21世紀のカンボジアを支援する会
理事長 根岸恒次

失われたクメール美術教育復活プロジェクト

8月21日~22日、本会が教育支援する「ソムブル小学校」(コンボンズプ州・生徒数350人)で、日本の団体による美術教育指導が行われた。

「失われたクメール美術教育復活プロジェクト」と称し、「アジアデザインアート展覧会コンソーシアム」(代表=藤澤忠盛~昭和女子大学准教授)が主催、本会は計画段階から加わり、全面協力してきた。代表の藤澤准教授は本会の教育里親会員でもある。

21日の小学校教室における美術指導では、対象を低学年(1年~3年)に絞り、主催団体が絵具と画用紙等を教室に持ち込み、主にカンボジア人学生が美術教育指導を行った。

22日は会場をプノンペン市内の「CJCC~絆ホール」に移し、前日に生徒たちが描いた作品を展示し、再び美術教育指導を行った。同小学校から生徒ら20人が参加した。

カンボジアの小学校では美術の科目がなく、特に低学年が対象だったため初めて絵を描いた生徒が多かった。絵を描く喜びを知った生徒たちの目が輝いていた。



↑未来のピカソが現れるかも?
ソムブル小学校の教室で

←自分の顔かな?

⇒絆ホールでは
工作もしました

カンボジアの子どもたちをサポートしてください

クメール教育里親会員募集

長かった内戦が終わって平和になったカンボジアですが、国の復興はなかなか進まず、多くの人々は貧困に苦しんでいます。特に農村では、貧しかったり親を亡くしたりして学校へすら行けない子どもや、学校へ行けても途中でやめてしまう子どもが後を断ちません。

本会では、農村の子どもたちが学校へ行けるようにと、教育資金をサポートしてくれる里親さんを募集しております。

例えば79年前、敗戦して焦土となった日本を救ってくれたのは、諸外国からの援助でした。カンボジアも食料援助をしてくださいました。日本の子どもたちもその恩恵を受け学校に行けるようになりました。豊かになった私たちが、今度は困っているアジアの子どもたちを支援する番です。

※お友達グループや職場など、グループ単位でサポートしていただくこともできます。

里親さんありがとう



【教育里親会費】 子ども1人につき 1年間3万円。
(活動のための諸費用含む)

- ・子どもへの直接支援額を高めるよう努力しております。
- ・一括納入、分割納入(毎月、年2回)のどちらでも可。
- ・所定の郵便振替用紙を使いお振込みください。

【支援する期間】 ・少なくとも子どもが学校を卒業するまでの間、支援して頂けたら幸いです。やむを得ず子どもが中退する場合がありますが、その際は別な子どもの支援をお願い申し上げます。

【子どもとの交流】 ・子どもからは概ね6ヶ月に1度、近況を報告する手紙(日本語に翻訳)と写真が届きます。
・里親から手紙、プレゼントを届けることができます。
(子どもから写真とお礼の手紙が届きます)

ベッチ・バンニャー君 (男の子)



アンクロン小学校 (コンボンスプー州ウドン郡) 1年生 (7歳)

- 両親離婚、母親のみ。弟が1人いる。現在母親、弟と暮らす。
- 好きなこと=サッカーを観ること。
- 学校まで徒歩で15分。

ソクキア・ケマーちゃん (女の子)



アンクロン小学校 (コンボンスプー州ウドン郡) 1年生 (7歳)

- 両親離婚、母親のみ。兄が1人いる。現在母親、兄と暮らす。
- 好きなこと=本を読むこと。
- 学校まで徒歩で15分。

ポル・ラチャナー君 (男の子)



アンクロン小学校 (コンボンスプー州ウドン郡) 3年生 (10歳)

- 両親いるが父親病気。弟が1人いる。現在両親、弟と暮らす。
- 好きなこと=サッカーをすること。
- 学校まで徒歩で10分。

ソック・ラックサー君 (男の子)



アンクロン小学校 (コンボンスプー州ウドン郡) 4年生 (12歳)

- 両親がいる。妹が2人いる。現在両親、妹と暮らす。
- 好きなこと=本を読むこと。
- 学校まで徒歩で5分。

ドム・セイハー君 (男の子)



アンクロン小学校 (コンボンスプー州ウドン郡) 3年生 (9歳)

- 両親離婚、母親のみ。兄1人、姉1人、妹2人いる。現在母親、兄姉妹と暮らす。
- 好きなこと=本を読むこと。
- 学校まで徒歩で5分。

教育支援をお願いします!

「クメール教育里親基金」では、教育支援を希望するカンボジアの子どもたちを、会報紙面で紹介いたします。支援して下さる方は、子どもの名前を添えて、事務局までご一報ください。

(先に里親が確定する場合がありますので、ご承知ください)

また、既に里子をお持ちの方も歓迎いたします。顔の見えるマン・ツィ・マンの教育支援です。

☎048・580・7048 FAX048・580・7049

ボランティアで会報発送のお手伝い



5月下旬に事務局を埼玉県深谷市に移転しましたので、会報発送など人手を要する作業に不安が生じていました。

そこで、事務局の近くに住んでおられる会員さんに呼びかけ、会報発送作業を手伝ってもらうことにしました。8月4日、群馬県にお住いの会員さんら3名が来局し、封入や宛名ラベル貼りなどの作業を手伝っていただき、無事郵送を済ませることができました。

これからも、会員相互の親睦交流を兼ねて発送作業を行います。お手伝いできる方はご一報ください。(駐車場はあります)



ボランティアで発送のお手伝い

「カンボジア教育支援西予」が2つの小学校に遊具寄贈



広瀬さん(愛媛県在住の会員)が代表を務める支援団体「カンボジア教育支援西予」の皆さんが、鉄くずなどの廃品を集めてお金を貯め、カンボジアの2つの小学校に遊具セット(ブランコ・滑り台・回転遊具)を寄贈してくれた。8月20日、現地スタッフが贈呈式に出席した。最近、幼稚園併設の小学校が増えており、今回の2校も同様。子どもたちの喜ぶ声は代えがたい宝物だ。

初めての遊具に喜ぶ生徒たち

僻村の小学校に井戸寄贈

武藤和義さん(84歳)・康代さん(75歳)ご夫妻(長崎県長与町在住の会員)が、僻村の小学校に井戸を寄贈してくれた。7月12日、現地スタッフが小学校を訪問して贈呈式を行い、井戸の性能点検と水質検査を行った。

井戸が完成したのはクラチェ州の「キロ66小学校」。本会の団体会員「愛知県板金工業組合青年部」が、この小学校に校舎を建設中。

武藤さんご夫妻は毎年の結婚記念日(11月)に井戸を寄贈、今年は早めに、水不足に悩む子どもたちが少しでも早く井戸の恩恵にあずかることができるよう、配慮してくれた。



武藤さんありがとう

楽しい学校生活

カンボジア小学校の授業時間は午前が7時~11時、午後が1時~5時となっていて、教室が少ない割りに生徒が多いため、午前・午後の2部授業を行う学校が多いようです。

生徒たちは、学年別に午前か午後のどちらかに通学しています。従って給食制度はありません。(自宅で食べる)

学校に行かない時間帯では、生徒たちは家の手伝いをしたり、近所の子どもたちと遊んだりしているようですが、やはり学校生活が一番楽しそうです。



熱心に学ぶ



ゴム跳びで遊ぶ



毎週木曜日は清掃作業日



休み時間はおやつ時間

カンボジアと日本の小学生がZOOM画面で交流会



8月20日、本会事務局が仲介し、カンボジアの小学生と日本の小学生がZoom画面を通じて交流した。広瀬さん(愛媛県西予市在住の会員)が全面協力してくれた。

広瀬さんは、鉄くずなどの廃品を回収してお金を貯め、カンボジアの小学校に井戸や遊具を寄贈しているが、この機会に両国の子どもたちの交流会を計画、カンボジアの小学校で遊具贈呈式を行うタイミングで小学生が「田之筋公民館」(西予市内)に集い、画面の中で交流した。

質問形式での交流だったが、これからも機会を作り交流を盛んにしていく計画。

楽しかったZoom交流会

懐かしき1枚

本会の黎明期に当たる2002年7月から2003年6月までの1年間、日本郵政公社(当時)より「国際ボランティア貯金助成事業」を受け「無医村住民のための巡回医療活動」を行った。現地で医師と看護師を採用、週に一度無医村を回り無料診療を行った。

本会の活動の柱は教育支援だが、25年にわたる現地活動の中、唯一の医療支援活動だった。



唯一の医療支援活動

縁の下の力持ち、現地ドライバーのリーさん

現地スタッフでドライバーのリーさんは、現地活動に欠かせない貴重な存在。本会の現地スタッフとして2006年に採用、勤続18年のベテランドライバーだ。

名前からして中国系カンボジア人だが、中国語も日本語も話さずカンボジア語オンリー。しかし18年も勤めていると、会話はできないが身振り手振りで大体通じる。日本語も少しわかるようになってきた。

カンボジアは道路事情が悪いので時々パンクするが、何のことなく修理する。まさに縁の下の力持的存在だ。感謝!



縁の下の力持ち (写真提供...遠藤啓氏)

クメール教育里親基金活動レポート

本会では、病气や事故、親の離婚などにより両親や片親をなくしたり、親がいても貧しい家庭環境にあるカンボジアの子どもたちが安心して学ぶことができるよう、2003年に「クメール教育里親基金」を創設、現在225人(8月末日現在)の子どもたちを教育支援している。



サッカーのユニフォームかな？

里子への教育支援金を隔月に届けています

本会のカンボジア事務所では、教育里子が通学する小学校(現在25校)を現地スタッフが隔月に訪問、教育里親様より頂戴した年会費の中から6回に分け、カンボジア通貨(リエル)に換金して教育支援金を届けている。



教育資金を届けました

8月5日~10日の間に6月分と7月分を、2人の現地スタッフ(ドライバー含む)が各小学校を訪問し、教育支援金と教育里親さんからのプレゼントを届けた。

里子へのプレゼントは随時受け付けています

- 国内では円安、現地カンボジアにおきましては物価が高騰しておりますので、やむを得ず里子へのプレゼント代を今年から下記の通りに値上げさせていただきます。どうぞご理解のほど、よろしくお願い申し上げます。
●事務局に届いた里子プレゼントにつきましては、年に1~2回程度になりますが、空港から持参させていただきます。暫くお時間を頂きますので、なるべく海外送金可能な現金をお送りください。

現地購入品目一覧表

- 自転車(中古品).....9,500円
●お米(50キロ入り).....5,500円
●通学用カバン.....3,500円
●Tシャツ2枚&サンダルセット.....2,500円
●お菓子セット(お菓子の詰め合わせ).....1,500円
●文房具セット(ノート、筆記用具類).....1,500円

※同封の振込票にてご送金をお願いいたします。



投稿 ビバ! 婆っちゃんず!

今 紀子(東京都在住 会員)

青森在住の母は、晩年、糖尿病に悩まされた。東京在住の私は、高齢者体操などを学んで、帰郷のたびに母に勧めた。しかし、昔かたぎの母はいやがった。近所に住む「みっちゃんの所に遊びに行こう」と誘っても、歩きたくないという。私たちが、ジムだスポーツだと言うような事も、母からみれば単なる遊びに過ぎないのだろう。

東京で私が住んでいた家の家主さんは、息子さんが出ていき、ご主人が亡くなり、一人で住んでいた。会うたびに老いていくのがわかる。私は言ったものだ。

「毎日、散歩してくださいね。車には気をつけて」「家にいる時は、こういう体操をするといいですよ」

そして、今、私が当事者になった。

正直に言うと、何もしたくない。どこにも行きたくない。

それでも、毎日散歩に出かけている。歩数計を持って。朝、起きると体操をする。忘れないうちに。

そんな私に、ある日、見知らぬ方からの便りが舞い込んだ。私は、某新聞の詩の投稿欄に、時々載るのだが、それを読んだ方からだった。

ある山小屋のおかみさんと、私と同年、名前も同じ。そして、同郷。何という奇遇。アナログ人間同士の二人には、手紙のやりとりは、ぴったりだった。心の隅っこにある澱みを吐き出せるのは、心の浄化になる。また笑えそうな気がする。

山小屋は、何かとせわしないだろうに、必ず返事が届く。手作りのユニークな封筒で、封筒を見ただけで、差出人がわかる。ドキドキする。

まさに神様からの恋文。一生きよ! と。

投稿 90歳のお爺さんが経営する胡椒農園

中村 善信(カンボット州 ケップ在住)

私の住まいからバイクで3分の場所に、胡椒観光農園「Soths Pepper Farm」があります。経営者は、日本語が話せる90歳のお爺さん(ロバート・クライさん)です。日本にも住んだことがあるそうです。

農園内には宿泊施設やレストランもあり、売店もあって胡椒を購入することができます。近くにお越しの時はお立ち寄りください。



90歳のおじいさん(中央)

ご冥福をお祈り申し上げます

訃報連絡が続きました。田代広伸さん(神奈川県在住)が3月頃に、三木浄万さん(兵庫県在住)が5月頃にそれぞれ亡くなっていたことが、家族からの連絡で分かりました。

お二人とも教育里親会員として、長い間カンボジアの子どもたちを教育支援してくださいました。現地にも度々訪問、里子と交流していました。

心からご冥福をお祈り申し上げます。ありがとうございました。



投稿 邦人12人がカンボジアで保護

根岸 恒次(法人理事長)

「高収入で簡単な仕事」といった虚偽の求人情報にだまされた日本人がカンボジアに渡航、強制労働に従事させられる事件があり、日本人12人が現地警察に保護されていたことが8月21日に判明した。



邦人が保護された建物

働かされていたのはカンボジア南東部スバイリエン州バベット、ベトナム国境にあり、カジノ施設が立ち並ぶ。中国が提唱する巨大経済圏構想「一帯一路」に伴い不動産やカジノ産業への投資が活発化、犯罪集団も流入し治安が悪化、特殊詐欺などの一大拠点になっている。

捜査当局は特殊詐欺などに関与させられた可能性があるとして、別の日本人数人が逃走、当局が行方を追っているという。

事件の発覚は、12人のうち数人がプノンペンにある日本大使館に救助要請、大使館から通報を受けた現地警察がカジノ施設を捜索、12人を救助した。

この種の事件は、私が知る限り3例目。最初は一昨年、カンボジア西部のリゾート「シアヌークビル」で。2例目は昨年プノンペン市内の高級ホテルで。相次ぐ日本人が絡む組織的犯罪にうんざりしている。

その背景には、日本で暮らす若者の貧困問題があるに違いない。安易に職を探せるSNSにも問題あるが、お金に困っている若者は「わらをも掴む思い」で巧妙な誘いに引っかかってしまうようだ。

少し前まで、日本人と聞けば尊敬のまなざしで見られていたが、今は軽蔑の対象になりかねない、危機的状況だ。戦後、官民によるカンボジアへの支援活動により築かれた信頼関係が、崩壊の危機にあると言っても過言ではない。

最近の傾向として、若者の海外移住が増えているようだ。先の見えない日本に見切りをつけ、海外で自己実現したい気持ちは尊重できるが、生活環境がガラリと変化する海外移住を甘くみてはいけぬ。綿密な事前リサーチが必要、そして何より精神的にタフでないと続かない。

投稿 フナンテチョ運河で突然の祝日

青木 貴之(KHJグループ総務)



8月5日は「フナンテチョ運河」の着工式で急きょ祝日と決まり、役所や銀行などが休みになりました。

この運河の原型は扶南王国(1~7世紀ごろ)時代に建設されたもので現在も使われていますが、深さを1.5mから5.4mに整備し、ベトナムを介さず海から直接プノンペンへの貨物を運べるようにします。

総工費は17億ドル・2028年の完成予定・全長は180キロ・上流幅100メートル・下流幅80メートル・水深5.4メートル・最大3,000トンの船舶を想定。

本会の会員状況をお知らせいたします

(2024年8月末日現在)

●教育里親会員	178名
●個人会員	60名
●団体会員	12団体
●寄付協力者(随時)	49名
合計	299名

書き損じハガキ・未使用切手

・商品券等をお送りくださいませ

本会では、書き損じハガキ・未使用の切手やビール券やデパートの商品券を集め、活動資金にしております。皆様の家に眠っているものがございましたら、ぜひ、ご協力くださいますよう、よろしくお願い致します。普通郵便で事務局へお送りください。



事務局便り

皆さんから頂く会費は今まで大手銀行経由で現地に送金していましたが、最近北朝鮮やロシアの問題があり、送金条件が厳しくなりました。本会事務局を地方に移転したこともあり、銀行経由の送金を諦め民間の海外送金会社をお願いすることにしました。既に2回ほど送金しましたが、問題なく送金されました。ネット送金ですので銀行に行く手間も省けました。

来年のカンボジア訪問は、2月上旬と3月下旬に小学校の校舎贈呈式があることから、事務局を長く空けることができないことから、1月〜4月に2度にわたり、理事長がカンボジア訪問します。前半を1月20日〜2月12日、後半を3月23日〜4月14日に予定していますが、まだ航空券を取れていませんので、多少の変更があるかもしれません。この機会にカンボジアを訪問したい方は、お早めに連絡をお願いいたします。既に団体・個人含む多くの会員さんから同行したいと連絡頂いており、目下スケジュール調整中です。

カンボジアへの海外投資



カンボジア政府高官によると、2023年8月から2024年7月までの新政権の11ヶ月間において、カンボジアは237件の海外からの投資プロジェクトを登録、総額は60億ドルを超えたとされる。外国資本の流入が、カンボジアの投資環境の改善と経済成長の潜在力を裏付けるものであると強調した。

カンボジアへの海外直接投資(FDI)急増、投資家の信頼を反映

在カンボジア日本大使館の植野大使がバタンバン州の地雷原を訪問、当地域で進行中の地雷除去活動を視察した。カンボジアと日本が長年にわたって協力してきた地雷及び不発弾問題への取り組みを再確認する機会となった。同地域は100世帯以上、560人が暮らしているが、61%にあたる764人が地雷や不発弾に汚染されており、現在までに10人の村人が地雷の被害に遭った。



地雷原訪問



カシューナッツ

パリ五輪終了、カンボジア代表はメダル獲得なし

パリ五輪が8月11日に閉幕、カンボジア代表選手たちはメダルを獲得することなく大会を終えた。カンボジアからは3人の選手が水泳と陸上競技に出場したが、世界最高峰の競技者が集うオリンピックでは、カンボジアの選手たちにとって厳しい挑戦となった。

海外青年協力隊



日本国際協力機構(JICA)カンボジア事務所発表によると、8月14日、新たに8人の青年海外協力隊員がカンボジアに到着した。これらの隊員は今後2年間にわたり、専門知識を生かし、幼稚園から高等教育、看護、科学の分野において、カンボジアの発展に貢献する見込みであるという。



ネット記事から最近のカンボジア情報をお知らせします。

JICAの青年海外協力隊、新たに8人がカンボジアに到着

春さんのカンボジアレポート

～シェムリアップのアンコールマーケット～

アンコール遺跡観光の拠点・シェムリアップ市には大小20店近くのスーパーがあります。いずれも観光客や富裕層に利用されています。

その中の一つ、市の中央を縦断する大通り・シボタ通りのアンコールマーケットが閉店しました。北に50mに老舗ラッキーモールがありました、昨年10月に閉業しています。

しかしアンコールマーケットは閉業ではなく、手狭になった故の拡大しての移転です。場所は国立博物館。広い駐車場もあり立地条件良しです!

アンコールマーケットは6年前には国道6号線沿いに2号店が開店していて、勢いがあります!

理事・会員 鈴木春男(カンボジア・シェムリアップ在住)



アンコールマーケット拡大移転



中国人観光客

カンボジアのカシューナッツ生産、世界2位に

カンボジアが2024年1月〜7月の間に生産したカシューナッツの総量が83万トンに達し、世界で2番目の生産国になったことが、カンボジアカシューナッツ協会の報告によって明らかになった。これによりカンボジアはインドを抜いて2位に浮上、1位のインドに次ぐ位置を占めた。

中国人観光客が増加

24年1月から7月にかけて、カンボジアを訪れた中国人観光客の数が前年同期比で45.6%増加したことが明らかになった。この期間中にカンボジアを訪れた中国人観光客は合計46万3980人で、前年の31万8498人から大幅に増加した。タイ、ベトナムに次ぐ第3位。

日系企業がプノンペンに 日本式幼稚園を開園

日本式幼稚園



東京を拠点とする「ワンダーファイブ株式会社」が、カンボジアに日本式幼稚園を開園した。カンボジアでは教師不足が深刻化しており、注目を集めている。同社はまずプノンペンに開設し、国内全土への展開も計画しているという。カンボジアには、幼稚園教諭を養成する公的機関が1つしかなく、5歳児の約65%しか就学前教育を受けていない状況であるという。

教育里親会員 入会申込書

年月日

氏名	ふりがな	生年月日	年	月	日
住所	〒	(TEL)			
備考	1. サポートして下さる子どもの人数 [] 人 2. サポートして下さる子どもの性別 ① 男子 ② 女子 ③ どちらでも 3. その他 [具体的に]				

*入会して下さる方は所定の事項をご記入のうえ、本会事務局までお送りください。